

海老沼会長あいさつ



栃木市青少年育成市民会議、藤岡こどもネットワーク会長の海老沼光雄と申します。
藤岡こどもネットワークだよりNO.9発行にあたり一言ごあいさつ申し上げます。
本会は、青少年の健全育成に、すべての市民が関心を持ち、市民が一体となり、次代を担う心身ともに健全な青少年の育成を図ることを目的として活動しております。
令和4年度は、コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら心身ともに健全な青少年の育成を図ることを目的に様々な活動を企画してまいりました。
令和5年度においてもコロナウイルス感染症拡大防止の影響を考慮しながら各種活動を行って参りますので、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

藤岡子ども会育成会連絡協議会の紹介

私たち藤岡子ども会育成会連絡協議会は、子ども会育成会の相互連携を図り、子どもが遊びを通して社会の一員として必要な知識・技能・態度を学び、心身の成長発達に大切な活動を推進助長することを目的としています。

昨年はコロナウイルスの影響もあり、活動の自粛を余儀なくされたことから、多くの活動が中止となっていました。令和4年度におきましては、地域で子どもを育てることを中心に据え、藤岡中学校との共催で打ち上げ花火を実施しました。当日は、天候にも恵まれ200人もの方が足を運んでくれ大盛況となりました。次代を担う子どもたちの健全育成のため、今後も有効かつ効果的な活動を展開して参ります。



わたらせフェスティバル巡回活動

令和4年12月17日(土)に開催された「渡良瀬遊水地フェスティバル」の際に、こどもたちの安心、安全を守るため、巡回活動を実施いたしました。当日は寒い日となりましたが、出店や展示会など大勢の親子連れや観覧者で賑わう中、会員ひとりひとりがこどもたちを守るという気持ちを持ち無事終了することができました。



(藤岡地域教育協議会の様子)

小中学生あいさつ運動 11月

コロナウイルス感染症拡大防止のため、2年間実施できなかったあいさつ運動を、朝の通学時にあわせ、各小中学校で実施しました。各学校とも元気にあいさつを交わし合い、生活の基本となるあいさつの大切さを学ぶことができました。



藤岡小学校



部屋小学校



赤麻小学校



三鴨小学校



藤岡中学校



とちぎ未来アシストネット事業



藤岡小学校

「家庭科裁縫ボランティア」

今年度は、「新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、できることから始めよう」を合い言葉に、ボランティアの皆様による学習支援を再開しました。家庭科の裁縫の学習ボランティアでは、手指消毒や換気の徹底、机の配置の工夫等の感染対策をして実施しました。

5年生は、6月に手縫いの学習で、玉どめ、玉結びや返し縫いの支援を受けました。担任1人ではできない手厚い支援を受け、飛躍的に技能が向上しました。子どもたちの笑顔にできた満足感があふれていました。6年生は、10月にナップザック製作でミシン縫いの支援を受けました。1クラスを2班に分け入れ替えることで、ボランティアさんが2人に1人ずつ付き、手取り足取り教えていただいたおかげで11月末の修学旅行に間に合いました。

部屋小学校

「わたしたちのくらしを守る消防団」

本校では毎年、3年生が社会科の学習で、栃木市消防本部、消防団の方々に招いて授業を行っています。始めに消防団の活動内容や実際に出動したときの話を聞いたり、質問をしたりしました。次にプールの水を使つての放水作業を一人ずつ体験しました。消防服を着せてもらい、太いホースを持って放水しました。ホースはとても重かったそうです。水害に遭ったときに使用する救命ボートに乗ったり引いたりする体験も行いました。児童の保護者の方も消防団として活動されている方が多く、「ぼくは、お父さんと一緒に消防車に乗って、パトロールしたことがあるよ。」「ぼくも消防団に入る。」と話している児童もいました。

児童は地域を守ろうと活動している消防団の皆さんの姿に憧れを抱いたことと思います。栃木市消防本部、消防団の皆様、お忙しい中、ご対応いただき、ありがとうございました。

赤麻小学校



「ボランティア活動へのきっかけづくりと赤麻地区クリーン作戦」

今年度も、コロナ禍でも「できることを探して・・・」を合い言葉に、地域ボランティアの皆様には様々な面でお世話になり感謝しております。毎日の登下校見守りや「昼休み見守り隊」を始め、掲示板「ボランティアコーナー」、花壇の手入れ、読み聞かせ、白衣修繕、家庭科ボランティアなど感染状況に応じて様々な活動にご協力いただきました。

1・2年生では、さつまいもの苗植えと芋掘りの貴重な体験を毎年行います。児童の祖父母にもお手伝いいただくようになり、地域ボランティアに登録いただいた方もいらっしゃいます。

また、ハートランドまちづくり隊主催の「赤麻地区クリーン作戦」では、教員・児童・保護者、地域ボランティア等100名を超える参加者が集まり、赤麻地区のゴミ拾いができました。

今年度も、地域の皆様の支えがあってこそその本校の教育活動を通して、ふるさとを大切に思い、心豊かで優しい「あかまっ子」が培われていることを実感した一年でした。



三鴨小学校



「多くのボランティアの方に支えられて」

今年度も、多くのボランティアの皆さんにご協力いただきながら、授業や学校行事等を実施することができました。

1・2年生は、毎年、生活科の学習でサツマイモの栽培を行っています。例年、担任が苗を植える畝を作っていましたが、今年度は、地域コーディネーターさんに依頼し、地域の方に作っていただきました。マルチも丁寧に掛けていただき、また担任の負担も減り、大変助かりました。

3年生は、国語の書写で初めて毛筆を行います。そこで、授業に参加していただき、筆を使って文字を書くことに慣れない子ども達への支援をお願いしました。道具の置き方や墨の付け方、筆運びなど、分かりやすく教えていただき、子ども達は上手に文字を書くことができました。

多くの保護者や地域、学校支援ボランティアの方が、本校の教育活動を支えていただいていることを実感した1年間でした。



藤岡中学校



「コロナ禍の中でもできる地域とのつながり」

今年度のアシストネット事業は、コロナの感染状況に注意し、感染対策を工夫しながら、まずはできることから実施していくことにしました。実施できた活動の中で2つ紹介します。

1つ目は、2年生の家庭科のエコバック製作の授業で、たくさんの地域ボランティアの皆さんが学習支援に来てくださいました。慣れないミシン作業に戸惑っていた生徒たちに布地のミシンのかけ方や手縫いの仕方までを丁寧に教えてくださり、生徒は作品を完成させることができました。

2つ目は、11月の愛読月間で朝読書の時間に12名の皆さんが読み聞かせに来てくださいました。興味深い話を独特の語りで紹介していただき、生徒の読書意欲も高まり、とても良い刺激になりました。地域の皆様との交流は子どもたちに学校の教職員とは異なる学びを感じる場になっています。コロナ禍においても何ができるかを考え、継続していきたいと考えています。





藤岡地域の保育園・幼稚園の取組

藤岡はーとらんど保育園



子ども達に「地元の文化に触れる機会」を、ということで栃木の伝統工芸品である「みかも焼き」を体験しました。藤岡町太田在住のしろがね工房・大鐘邦子先生を園にお招きして年長児19名を対象に初めて触れる土粘土の感触を楽しみながら、かぶと虫・コブラ・海賊船・クマやウサギの顔を付けたカップ・お皿にカジキマグロが乗っているところなどなど、子どもらしい発想の作品が出来上がりました。釉薬等での色付けと、焼き上げは先生の工房で行っていただき、後日出来品を見た子ども達は、柔らかい土粘土が陶器になっていることへの驚きと、子どもたちのイメージを壊さないよう色付けされた出来上がりに「すごいね」「不思議だ」と喜びの声も聞かれていました。この焼き物は、卒園記念のひとつとなります。素朴で温かみのあるみかも焼きが身近で体験できることを有難く思うのと同時に、地元の土で作り上げる風合いのある焼き物文化の大切さを、改めて感じる時間となりました。

ふじおか幼稚園



新型コロナウイルスの影響で保育の内容や行事も見直しを余儀なくされています。ご家庭でのお出かけの機会なども減ってしまい、経験や体験をする機会を幼稚園で少しでもこどもたちに与えたいと考え、ふじおか幼稚園では昨年の移動動物園に続き、今年度はモンキーエンターテイメントの間中様にご協力を得て、園内におさるさんをお呼びしておさるさんが芸をこどもたちに披露してくれました。近い距離でおさるさんのショーを見学したり、おさるさんが逆立ち歩きや、バック転などを披露してくれると、こどもたちはより興味を持ち、年長さんはおさるさんと競争などし、実際に触れ合ったりと楽しい時間を過ごしました。コロナ禍でも素敵な思い出を作ってもらいたいという想いで保育や行事を考えてきました。こどもたちのキラキラした目や可愛い表情がとても印象的なイベントとなりました。

バンビ幼稚園



今年度一年間、子どもたちと一緒に『S世界中のD誰だってG元気にしちゃうs作戦!』をテーマにSDGsについて子どもたちと取り組んでいます。7月にSDGsをテーマに行った“ごっこ遊び”では、ゴミの分別ゲームからリサイクルについて、牛の乳搾りの疑似体験から、牛さんに感謝する気持ち、自分たちで育てたものをおいしくいただくまでの過程などを、子どもたちと一緒に作り上げ、遊びを通して学ぶ活動を行いました。今年初めて園の玄関にツバメが巣を作り、飛びたつまで子どもたちと一緒に毎日見守りました。巣から顔を出している雛を見て、ニコニコと会話をしながら登園してくる親子の姿は、何十年も残していきたい姿だと思いました。これもSDGsだと思います。地球のために、私たちができることを小さくても続けていくことが大切ですね。未来の子どもたちと日本のために。

【藤岡こどもネットワーク協力団体18団体】（令和4年5月現在）

藤岡シティ青少年健全育成推進部会、藤岡地区民生委員・児童委員協議会、栃木保護区保護司会藤岡地区会、栃木市更生保護女性会藤岡地区、とちぎ未来アシストネット藤岡地域教育協議会、藤岡地域小中学校長会、栃木市社会福祉協議会藤岡支所、藤岡地域自治会連合会、藤岡地区スポーツ協会、藤岡地域少年補導員会、藤岡子ども会育成会連絡協議会、栃木市PTA連合会藤岡ブロック、藤岡地域幼稚園、藤岡地域保育園、どーなつクラブ、ふじおかおはなし会コロポックル、藤岡文化団体連絡協議会、藤岡ネットワーク推進員（順不同）